

(基本情報)



種別 黒毛和種
 血統 気高、藤良、但馬系
 年間出荷頭数 40～50頭
 出荷月齢 約30ヵ月
 肥育牧場数 5戸(一貫生産)
 主な出荷先 ホクレン



(特徴)

- ◆軽種馬生産地であるこの地域は、元々良質な牧草(ミネラル豊富)や良いわき水など恵まれた環境が揃っており、品質の良い和牛を生む素地が形成済み。
- ◆子牛生産から肥育まで町内で飼育されている。
- ◆平成24年に町営の和牛センターが開設され、地域が一体となって和牛の品質向上に取り組んでいる。

にいかっぶ和牛の改良拠点として和牛センターが2012年4月11日オープン

新冠町では町内の和牛生産の品質向上のため町営の和牛センターを整備しました。センターでは町内の和牛生産農家から生後7～8ヵ月齢の素牛を預かり、約22ヵ月間肥育し枝肉として販売します。

枝肉成績から遺伝能力データを生産者と共有し、優良繁殖牛の保留や高付加価値の素牛生産に結びつけていくことを目的としています。



和牛センターで肥育した牛肉



2012.4.11オープン



←出荷前の和牛

にいかっぶ和牛の購入は何処で?

- 町内のスーパー、ホテル
- 新冠町農協駐車場で7月に「ふるさとまつり」、8月に「農協まつり」が開催され、そこで購入できます。



お祭りでは期間限定でビーフジャーキーが販売されています。

にいかっぶ和牛の生産に関わる方々にお話を伺いました

★和牛生産が始まった理由は?

稲作や畑作との複合経営として導入され、昔は蹄耕法(牛に、原野、山林を踏ませて草地にする)の役割もありました。

★和牛センターの今後の展望は?

新冠の和牛がA5ばかりになるよう、優秀な母牛の発掘と増産に努めたいと思います。



和牛センターの
清川敏雄さん

★和牛生産を始めた動機は?

- ・以前は酪農と畑作の複合経営でした。
- ・島根県と宮城県から繁殖牛を導入し、試験肥育を経て、今に至っています。
- ・現在、全頭を一貫生産とし牛は4代目まで改良を進めています。

★肥育する上でのこだわりは?

- ・とにかく優秀な母牛にこだわって、娘牛を後継に残すことが、私なりの改良であり、楽しみでもあります。



一貫生産農家の
庄司 敏さん



枝肉共励会で優秀賞を受賞した
庄司 敏さんの
息子の一也さん